



TITLE:

此の頃の話題

AUTHOR(S):

CITATION:

此の頃の話題. 天界 1929, 9(95): 133-133

ISSUE DATE:

1929-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161378>

RIGHT:

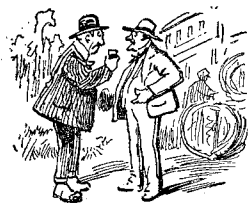
天 界

第九十五號

(第九卷)

昭和四年二月

〔此の頃の話題〕



山崎彗星は ほんこうにフォルベス彗星か否か？ 若しほんこうならば山崎氏の去る十月末の観測は、フォルベス氏の発見より先き立つこゝに實に三週間以上であるから、單に発見者としての名譽だけでなく、軌道計算上非常に優れた材料を供するこゝとなる。此の問

題の解決は後日の観測結果の發表によつて漸次明らかになるであらう、樂しみでもあり、心配でもある。(後記 此の確證は遂に獲られた。第143頁參照)

南洋の日食 が近づく。スマトラ、マレイ半島、フィリピン等の土地へ向け、何國からぎんな観測隊がやつて来るだらう？ 英米獨佛蘭の各國から、風のたよりにいろ々々の情報が傳はつて来る。英國からはストラトン氏の一隊や、獨國からはフロイドリヒ氏の一隊、又、米國からはミラー氏の一隊やキルソン山の人々が来るらしい。我が日本の東西各地の天文家たちも少しく動きかけてゐる。三月末か、四月にもなれば、總ての花形役者が出揃つて、賑々しくアジアの一角へ集まるだらう。

「二百吋」の巨大な反射鏡 が出来るのだといふ。いふまでもなく之れは米國の話、加州バサデナ市にある工學院とキルソン山天文臺との協力で、之れをキルソン山上に作るうといふ計畫が昨秋景氣よく發表された。さすがは米國である！